

残された問題

3年間の過去をもち、なお現在も活ぱつに進められている核原料物質の調査——その間にわれわれはいくつかの新しい型のウラン鉱床に接し、鉱物の、いままで知られていなかったような産出状況も観察した。同時に、日本のおかれている地学的環境の宿命をも、痛切に感じたのである。他の鉱床についてよく言われるスケールの小ささは、現在までのところでは、放射性鉱物についても例外ではないようである。品位の問題一つでも、アメリカの最低基準、U=0.1%のレベルよりは、どうしても1

ケタ下廻るもののほうが多い。これらの弱点を克服するにはいろいろな道があるが、地質に学ぶ者としては何よりも鉱床の合理的な探査と開発に役立つように、資源の実体を早く正確につかむことと、鉱床の構造やでき方鉱物の組成や利用などについて、野外調査と室内での実験を通じて、確実な知識と資料の量を増して行くことをまず大切にする必要がある。原子炉の材料としてのジルコン・ホウ素・リチウム・ベリリウムを含む鉱物なども次の段階で遠からず必要とされる日がくることを考えれば、広い意味での核原料資源として、注目しておかねばならないかもしれない。

日本の放射性鉱物鉱床の、ほんとうの姿を見きわめるために、地質調査所の努力は、これからも絶えまなく、つづけられる。

放射性鉱物主要産地名索引

(P.3, P.6参照)

あ	青島山	愛知・幡豆郡吉良町	※山宝	岡山・川上郡川上町	西山	福岡・早良郡金武村
	秋ノ宮	秋田・雄勝郡雄勝町	三丁目	福島・田村郡西田村(窪隈)		岡山・苫田郡上齊原村
	足ノ浦	香川・仲多度郡広島村	※新美川	岡山・小田郡矢掛町	○人形峠	鳥取・東伯郡三朝町
い	石川地方	福島・石川郡石川町、周辺	す水晶山	福島・伊達郡川俣町	は波方	愛媛・越智郡波方町
	石榑	三重・員弁郡石榑村	杉山	佐賀・小城郡南山村	原田	広島・尾道市
う	雲水峠	福島・須賀川市埋平	た田尻	福岡・東白川郡鯨川村	ひ△日吉	岐阜・瑞浪市
	浮岳	福岡・糸島郡二丈村(大山)	田立	長野・西筑摩郡田立村	比良谷	滋賀・滋賀郡木戸村
え	※比寿	岐阜・恵那郡蛭川村	田ノ上山	滋賀・栗田郡瀬田町	ふ※福岡	岐阜・恵那郡福岡村
お	※小	鳥取・倉吉市菅原	田野畑	岩手・下閉伊郡田野畑村	房又	福島・伊達郡川俣町
	大	香川・大川郡志度町	大文字山	京都・京都市左京区	は銚ガ岳	宮崎・東臼杵郡北方村
	大能	茨城・高萩市高岡	高遠	長野・上伊那郡高遠町	ま真崎	福岡・田川郡川崎町
	大呂	愛媛・越智郡宮窪町	竹日向	山梨・甲府市能泉	牧場	茨城・高萩市高岡
	大山	京都・中郡峰山町(五箇)	立岩	愛媛・温泉郡北条町	※松岩	宮城・気仙沼市
か	海方作	福島・安達郡東和村	つ附馬牛	岩手・遠野市(中滝)	み三国岳	滋賀・高島郡マキノ町
	上乙茂	岩手・下閉伊郡岩泉町	と戸倉	福島・東白川郡鯨川村	※三吉	岡山・倉敷市原津
	川張	宮城・伊具郡丸森村(大張)	戸沢	福島・安達郡東和村	御守	福岡・糸島郡志摩村(小富士)
く	久保張	佐賀・佐賀市	な苗木地方	岐阜・中津川市	岩手	上閉伊郡宮守村
	口ノ倉	奈良・磯城郡上之郷村	(一部△)	岐阜・恵那郡福岡村・蛭川村	や山口村	長野・西筑摩郡山口村
	口太山	福島・伊達郡川俣町	中井	福島・田村郡田村町(二瀬)	山ノ尾	茨城・真壁郡真壁町
	黒平	山梨・甲府市宮本	中沢	福島・東白川郡鯨川村	柳井	山口・柳井市石井
こ	小峠	福岡・田川郡川崎町	長垂山	福岡・福岡市	ゆ由宇	山口・玖珂郡由宇町(貞清)
※	小馬木	鳥根・仁多郡馬木村	長手島	石川・羽咋郡羽咋町	り竜門	熊本・菊池郡菊池町
	河辺	京都・中郡大宮町	七草木	福島・田村郡三春町御木沢	わ鷲ノ滝	岩手・釜石市栗橋
さ	崎浜	岩手・気仙郡越喜來村	に西宇部	山口・宇部市厚南区	(備考) ※: 鉱脈型 △: 砂 〇: たい積型	

おもな文献

以下の文献は比較的手に入れやすく基本的内容をもつものの例としてとりあげた

単行本および要覧

- S.DANA: System of Mineralogy 6th ed. (1915)
(John Wiley & Sons Inc. New York U.S.A.)
- C. PALACHE H. BERMAN C. FRONDEL
DANA'S System of Mineralogy 7th ed. Vol. I (1944)
Vol. II (1951) (John Wiley & Sons Inc. New York U.S.A.)
- J.W. FRONDEL M. FLEISCHER
A Glossary of Uranium and Thorium bearing Minerals
2nd ed. (U.S.G.S. circular 194) (1952)
(United States Geological Survey)
- P. E. KERR: The Natural Occurrence of Uranium and Thorium
(International Conference on the Peaceful Uses of Atomic Energy 1955)
- FAUL, HENRY: Nuclear Geology (1953)
(John Wiley & Sons Inc. New York U.S.A.)
- 伊藤貞市・桜井欽一 編
和田・日本鉱物誌 3版上 (1947) (中文館書店)
- 渡辺武男・関根良弘・村井勇 訳
原子力ハンドブック・鉱石篇 (1955) (商工会館出版部)
(原著 R. D. NININGER: Minerals for Atomic Energy)

- 島 誠: 地球化学探鉱法 (1955) (丸善)
- 地質調査所編 (硯書房)
- 日本鉱産誌 I-c (主として金属原料となる鉱石)
- 日本鉱産誌 II (主として化学工業原料・肥料原料となる鉱石)
- 工業技術院編: 工業アイソトープ (1956) (日刊工業新聞社)

雑誌特集

- Economic Geology - Anniversary Volume (1956)
(The Economic Geology Publishing Co.)
- ポピュラ・サイエンス: ウラン鉱の知識と探鉱の実際 (1956-VIII)
(ポピュラ・サイエンス社)

雑誌

- 放射性鉱物とその鉱床についての論文や紹介が比較的多くのせられるもの
- Economic Geology (The Economic Geology Publishing Co.)
- American Mineralogist (The Mineralogical Society of America)
- 鉱山地質 (鉱山地質学会編)
- 鉱物学雑誌 (日本鉱物学会編)
- 地質学雑誌 (日本地質学会編)
- 岩石鉱物鉱床学会誌 (岩石鉱物鉱床学会編)
- 物理探鉱 (物理探鉱技術協会編)
- 地質調査所月報 (地質調査所編)

地質調査所の刊行物は東京地学協会(東京都千代田区二番町12)で取扱っている